

日語論說文中「主張」句子結尾之探討 —台灣日語學習者與日語母語者的比較—

本間美穗

銘傳大學應用日語學系助理教授

摘要

本研究中所謂的「主張」，是指文章中對相關話題表達自己意見的內容部分，是在論說文中不可缺少的要素。本研究是針對日語母語者與台灣的中階及高階日語學習者所寫の日語論說文進行比較分析，並探討台灣的中階日語學習者和高階日語學習者的「主張」句子結尾之使用情形與特色為主要之研究目的。得知結果如下：

- 一、中階及高階日語學習者在表達意見時，多傾向使用「思う」。
- 二、中階日語學習者方面，「情態」的運用能力並不高，在表達意見時能熟練使用的僅限於「方がいい」和「べきだ」的兩個。
- 三、高階日語學習者方面，雖然「情態」的運用能力比中階日語學習者高，但是日語母語者常使用的「だろう」和「のだ」的運用，還不熟練。
- 四、比起台灣日語學習者，日語母語者所使用的「見解動詞」和「情態」有較多樣化的情形，並且「考える」和「だろう」之使用較多見。

關鍵詞：論說文、主張、見解動詞、情態、台灣學習者

受理日期：2017.08.31

通過日期：2017.10.20

**Exploring assertions sentences' ending in the Japanese
opinion essays:
Comparison between Japanese learners in Taiwan and native
Japanese**

Homma Miho

Assistant Professor, Ming Chuan University, Taiwan

Abstract

The “Assertions” in this research means those contents of person’s own opinions for related topics. It is indispensable for Opinion Essays. The comparative analysis of Japanese Opinion Essays written by native Japanese and the Intermediate and Advanced level Japanese learners in Taiwan were conducted. Features and usage of “Assertions” sentence ending by intermediate and advanced Japanese learners were analyzed. Followings are the results:

1. Both level learners tend to use “omou” to express opinions.
2. Intermediate learners exhibit low level of applying Modality. “hougaii” and “bekida” are commonly used when trying to express opinions.
3. Advanced learners show better usage of Modality than intermediate level. But when compared to native Japanese, they still can’t skillfully utilize the common “darou” and “noda”.
4. Comparing to Japanese learners in Taiwan, native Japanese show more diversifications of applying Opinion Verbs and Modality. And they use “kangaeru” and “darou” more often.

Keywords: Opinion Essays, Assertions, Opinion Verbs, Modality,
Taiwanese Learners

日本語意見文における「主張」の文末表現の一考察 —台湾人学習者と日本語母語話者の比較—

本間美穂

銘傳大学応用日本語学科助理教授

要旨

本稿における「主張」とは、文章の話題に対する書き手の意見が表されている文で、意見文に必須の要素である。本稿では、日本語母語話者と台湾人中級学習者および上級学習者の意見文を比較分析し、台湾の中級と上級の日本語学習者の「主張」の文末表現使用の傾向や特徴を明らかにすることを試みた。分析の結果、次のことが明らかになった。

- (1) 中級学習者と上級学習者はいずれも意見述べて「思う」を多用する傾向がある。
- (2) 中級学習者はモダリティ表現の運用能力があまり身に付いておらず、意見述べて使用できるのは「方がいい」「べきだ」など非常に限られている。
- (3) 上級学習者は、中級学習者よりモダリティ表現の運用能力が向上しているが、日本語母語話者が比較的によく使用する「だろう」や「のだ」などはまだ使いこなせない。
- (4) 日本語母語話者は、台湾人学習者と比べて使用する見解動詞とモダリティ表現に多様性があり、「考える」と「だろう」の使用が目立つ。

キーワード：意見文、主張、見解動詞、モダリティ、台湾人学習者

日本語意見文における「主張」の文末表現の一考察 —台湾人学習者と日本語母語話者の比較—

本間美穂

銘傳大学応用日本語学科助理教授

1. はじめに

「意見文」とは、ある物事についての書き手の意見を、根拠や理由を明確に示しながら述べ、読み手の同意を求めようとする文章のことである¹。自分の考えを、説得力ある根拠に基づいて分かりやすく書く能力は、学業上必要であるだけでなく、ビジネス面でも活用できるものである。大学の日本語教育における作文授業では、論文などのアカデミックな文章が書けるようになることが最終到達目標であり、その過程で意見文の指導が行われる。それに資することを目的に、これまで、日本語母語話者と中国語を母語とする日本語学習者の意見文の比較研究がなされ、両者の日本語意見文は文章構造や接続・文末表現の使用などに違いがあることが報告されている。しかし、管見の限りでは、台湾人学習者を対象とした研究はまだ数が少なく、台湾人学習者のレベル間の差異も明らかになっていない。

そこで、本稿では台湾人日本語学習者の意見文に関する研究の手始めとして、意見文の必須要素である「主張」（文章の話題に対する書き手の意見を明示したもの）の文末表現に焦点を当てて分析を行い、今後の指導への示唆を得たい。

2. 先行研究

日本語母語話者と中国語を母語とする日本語学習者の意見文の「主張」に用いられる文末表現を比較分析した先行研究に、伊集院・高橋（2012）と野崎・岩崎（2014）がある（表1参照）。

¹ 近藤（1996：235）、梶本（1997：80）参照。

伊集院・高橋（2012）では、日本語母語話者は「主張」の文の末尾において多様な言語形式を効果的に使用しているのに対し、台湾人学習者は「思う系」の思考動詞の使用が顕著であることを明らかにしている。一方、野崎・岩崎（2014）では、日本語母語話者と中国人学習者の意見文を分析し、日本語母語話者が「思う」「考える」「言える」など多様な主張動詞を使うのに対して、中国人学習者は「思う」のみを多用していること、また、モダリティ表現「だろう」の使用が困難であることを報告している。更に、中国人学習者が書いた日本語と中国語の意見文を比較し、学習者が断定的表現を避けるために「思う」を多用した可能性を指摘している。

表 1 意見文の「主張」に用いられる文末表現に関する先行研究

研究者	伊集院・高橋 2012	野崎・岩崎 2014
調査対象 内訳	JP: 日本語母語話者の意見文 134 編。 LN: 台湾人学習者の意見文 57 編、韓国人学習者の意見文 55 編。(全員日本語能力試験 2 級合格以上の中上級以上レベル。)	JP: 日本語母語話者の意見文 20 編。 LN: 中国人学習者の意見文 20 編。(日本語能力試験 N1 合格 9 名、N2 合格 11 名の中上級以上レベル。)
テーマ	ネット時代における紙媒体の必要性	ネット時代における紙媒体の必要性
日本語 母語話者	「思う系」だけでなく、「考える系」の思考動詞、「だろう」等のモダリティ表現を多用。冒頭文では思考動詞を多用し、最終文ではモダリティ表現の使用が増えるなど、出現位置により使用される言語表現に特徴がある。	「思う」のほか、「考える」「言える」「感じる」など多様な主張動詞を使用している。
日本語 学習者	台湾人学習者、韓国人学習者のいずれも「思う系」の思考動詞の使用が顕著であり、その他の言語形式の使用はあまり見られない。	中国人学習者は「思う」を多用し、他の主張動詞をあまり使用しない。また、モダリティ表現「だろう」の使用が困難である。

これらの先行研究により、中国語を母語とする日本語学習者の意見文における「主張」の文末表現の使用について、ある程度の傾向

が明らかになった。しかし、両研究の調査対象者の出身地域は片や台湾、片や中国で異なる。また、調査対象者の日本語レベルについても、日本語能力試験 2 級、或いは N2 合格以上で、中級学習者と上級学習者が一括りにされており、両レベルの台湾人学習者が同様の傾向や特徴を持つのか明らかになっていない。

そこで、本稿では、日本語母語話者と台湾人中級および上級学習者の一定数のデータを確保し、「主張」の文の末尾の言語形式の分類も上述の先行研究を参考にしながら項目を調整して、台湾の中級と上級の各段階にある日本語学習者の「主張」の文末表現使用の傾向や特徴を明らかにすることを目指したい。

3. 本研究の概要

3.1 分析データ

本稿では、日本語母語話者の意見文については、東京外国語大学の伊集院郁子准教授が、研究・教育の用に供する目的でウェブサイトで一般公開している「日本・韓国・台湾の大学生による日本語意見文データベース（以下、日本語意見文DB）」に収録されているネット時代における紙媒体の必要性に関する意見文134編と、国立国語研究所が作成した「日本語学習者による日本語作文と、その母語訳との対訳データベース（以下、対訳作文DB）」に収録されている喫煙規制に関する意見文44編²の計178編をデータとする³。

一方、台湾人学習者の意見文については、2016年4月～5月と2017年4月～5月の2度に渡り、台湾北部の大学の日本語専攻生にそれぞれ2つのテーマで意見文を書いてもらう作文調査を行い、中級学習者と上級学習者各132編のデータを得た。表2に分析データの概要、表3に台湾人学習者の情報をまとめた。

² 対訳作文 DB には、参考資料として日本語母語話者による日本語作文 66 編も含まれている。本稿ではその中の喫煙規制に関する意見文 44 編を使用する。

³ 日本語意見文 DB と対訳作文 DB は、日本語教育関係者、日本語学・対照言語学等の研究者に利用されており、研究活動としての利用に耐えうる質・量を持ったデータである。

表2 分析データの概要

	執筆者	テーマ	作文数	収集期間
日本語 意見文DB	日本語 母語話者	ネット時代における紙 媒体の必要性	134	2007年 6月～11月
対訳作文 DB	日本語 母語話者	喫煙規制	44	不明
第一次 調査	台湾人 中級学習者	ネット時代における紙 媒体の必要性	31	2016年 4月～5月
		喫煙規制	31	
	台湾人 上級学習者	ネット時代における紙 媒体の必要性	31	
		喫煙規制	31	
第二次 調査	台湾人 中級学習者	選挙権年齢引き下げ	35	2017年 4月～5月
		高齢者の安楽死合法化	35	
	台湾人 上級学習者	選挙権年齢引き下げ	35	
		高齢者の安楽死合法化	35	

表3 台湾人学習者の情報

	日本語レベル	人数	性別	平均年齢
第一次調査	中級（N2合格）	31	男性8名、女性23名	21.0歳
	上級（N1合格）	31	男性7名、女性24名	21.6歳
第二次調査	中級（N2合格）	35	男性10名、女性25名	21.5歳
	上級（N1合格）	35	男性8名、女性27名	21.9歳

台湾人学習者には、次の4つの課題文⁴を読み、辞書などは使わずに1時間を目安に400字～800字程度の日本語の意見文を書いてもらった。【課題文一】【課題文二】【課題文四】の3つについては、それぞれの意見文の中国語訳も書いてもらっている。

<p>【課題文一】 題目：「インターネット時代に新聞や雑誌は必要か」 今、世界中で、インターネットが自由に使えるようになりました。ある人は「インターネットでニュースを見ることができるから、もう新聞や雑誌はいらない」と言います。一方、「これからも、新聞や雑誌は必要だ」という人もいます。 あなたはどのように思いますか。あなたの意見を書いてください。</p>
<p>【課題文二】 題目：「たばこについての私の意見」 今、日本では、たばこのことが問題になっています。ある人は言います。「会社やレストラン、列車やタクシーなど公共の場所や交通機関では、たばこを吸えないよう規則を作るべきだ。また、たばこのコマーシャルは子どもに悪い影響を与えるから、テレビやラジオ以外でも、でき</p>

⁴ 【課題文一】は日本語意見文DB、【課題文二】は対訳作文DBを参考にした。

ないようにするべきだ」。一方、次のように言う人もいます。「規則を作って禁止するのはおかしい。だれにもたばこを吸う権利があるはずだ」。

あなたはどのように思いますか。あなたの意見を書いてください。

【課題文三】 題目：「選挙権年齢に関する私の意見」

「選挙権」とは、主に選挙で投票できる権利のことです。日本では今年6月から、選挙権年齢が20歳以上から18歳以上に引き下げられました。世界の状況を見ると、現在は18歳で選挙権を与える国が多数です。そのため、「台湾でも選挙権年齢を18歳以上に引き下げべきだ」と言う人がいます。一方、「20歳以上のままでいい」と言う人もいます。

あなたはどのように思いますか。あなたの意見を書いてください。

【課題文四】 題目：「高齢者の安楽死合法化に対する私の考え」

オランダは2002年に世界で初めて安楽死を合法化しました。オランダではその後、安楽死による死亡者数が増加を続け、2006年には全死亡者数の3.9%を占めました。オランダ政府は現在、安楽死の条件を緩和し、不治の病を患ったり、堪え難い苦痛に苛まれる病人だけでなく、健康な高齢者にも適用することを検討しています。

あなたは、間もなく超高齢化社会に突入する台湾でも、高齢者が希望すれば病気ではなくても死ぬ権利を認めるべきだという意見に賛成しますか。それとも反対しますか。どちらかの立場に立ち、理由を挙げて、考えを書いてください。（あなたと反対の立場についても触れながら書いてください。）

3.2 分析方法

3.2.1 「主張」の定義と認定基準

本稿は、意見文に必須の要素である「主張」を扱うため、それを如何に認定するかが重要となる。まず、「主張」の定義についてだが、木戸（1992：10）では、「主張」を、（1）テーマに対する書き手の賛否の意見（与えられたテーマについて賛成か反対かという書き手の立場を表明する文）と（2）テーマに対する発展的意見（賛否から発展して、提案や要望などの意見を表明する文）の2つに分類している。一方、伊集院・高橋（2012：4）では、「主張」を「テーマに関する書き手の意見が明確に表されているもの」と規定している。本稿では、木戸（1992）と伊集院・高橋（2014）を参考に、「主張」を「文章の話題に対する書き手の意見を明示したもの」と定義する。

また、「主張」の認定については、新聞社説の主張ストラテジーの日韓対照研究を行った李（2008：103）と日台韓の大学生の日本語意見文における主張の文末表現を比較した伊集院・高橋（2012：4）の

「主張の認定基準」、意見文指導の研究成果をまとめた大西（1990）が提示した「論理キーワード」⁵を参考に、以下の基準を設定した。

- (1) 叙述表現が「主張」を表すもの（特に、思考、断定、婉曲、疑問、願望、当為を表す表現等が「主張」になりやすい。また、文頭や文中には「しかし」「が」「だから（ですから）」等の接続語句が出現することが多い）。
- (2) 「主張」と判断された文と同じ内容が反復されているもの。
- (3) 意味の完成度の高いもので、文脈への依存度が低く、他の文から独立性が高いもの。

産出例として、台湾人上級学習者が書いた「選挙権年齢引き下げ」に関する意見文を挙げる。下線を引いた文が「主張」に当たる。

「選挙権年齢に関する私の意見」

今、台湾の現状を考えて、私は台湾の選挙権年齢を18歳以上に引き下げるべきだと思う。なぜなら、現在インターネットが普及していて、若者が勉強できる場所は学校に限らない。正しくない情報もあるかもしれないが、いろいろなところで意見を交換できる。それを通じて、18歳、いわゆる高校卒業くらいの若者は政治にも関心を持っているはず。

例えば、最近話題になった同性婚姻について、民法を修正する件。中学生や高校生はFacebookなどのSNSで、それぞれの意見を述べて、立場によっての考えは違うので、ケンカしたこともあるけれども、若者が物事に関心を持ち、何をしたい気持ちがあると考えられる。だから、選挙権があったら、若者たちは自分の考えを実現できるようになる。

18歳の年齢は人によって、未熟者はたくさんいると思うが、しっかり国家や法律を考えている若者もたくさんいるはず。だから、選挙権年齢を18歳以上に引き下げるべきだと思う。

3.2.2 「主張」の文末表現の分類

次に、本稿における「主張」の文末表現の分類について説明する。伊集院・高橋（2012）では、調査対象者の意見文から抽出した「主張」の文末表現を、「モダリティ」「思考動詞」「立場表明」の3つに分類している。一方、野崎・岩崎（2014）では、伊集院・高橋（2012）

⁵ 大西（1990:137）は、「意見構築の骨格を形づくるかなめとなることば」を「論理キーワード」と呼び、日本語母語話者の意見文の分析結果から、「主張」に現れる接続詞・接続助詞などの接続語句、思考操作語句、判断を示す文末語句などを提示している。

の分類を踏襲しつつ、いくつかの要素を追加・修正して「モダリティ」「主張動詞」「立場表明」の3つに分類している（表4参照）。

表4 先行研究における「主張」の文末表現の分類

伊集院・高橋 2012: 10		野崎・岩崎 2014: 49-50	
分類	言語形式	分類	言語形式
モダリティ	「だろう」「のだ」「のではない（だろう）か」「べきだ」「なければならない」「てはならない」「はずだ」「ばいい」「てほしい」「てもいい」「はずがない」「ではないか」「(し)そうだ」「みたいだ」「にちがいない」「わけではない」「わけにはいかない」	モダリティ	「疑問文」「だろう」
思考動詞	「思う系」「考える系」	主張動詞	「思う」「考える」「言う」「見る」「感じる」
立場表明	「賛成する／賛成だ」「反対する／反対だ」「立場である／立場をとる」	立場表明	「賛成だ」「反対だ」

本稿では、伊集院・高橋（2012）と野崎・岩崎（2014）の分類を参考に、日本語母語話者と台湾人学習者の意見文から抽出した「主張」の文末表現を、次の表5に示すように、「①モダリティのみ」⁶、「②見解動詞のみ」⁷、「③モダリティ+見解動詞」⁸、「④立場表明」、「⑤未使用」⁹の5つに分類する。

表5 本稿における「主張」の文末表現の分類

タイプ	主な言語形式
①モダリティのみ	▼評価系：「べきだ」「方がいい」等 ▼認識系：「だろう」「かもしれない」等 (但し、「断定形(φ)」は除く)

⁶ 認識のモダリティの「断定形」（無標形式）と丁寧さのモダリティは除く。

⁷ 本稿では、伊集院・高橋（2012）で「思考動詞」、野崎・岩崎（2014）で「主張動詞」に分類される「思考動詞」や「知覚動詞」などを「見解動詞」とする。

⁸ 「べきだ」「方がいい」等のモダリティ表現に「思う」「考える」等の見解動詞を付加した形。

⁹ 「べきだ」「方がいい」等のモダリティ表現、「思う」「考える」等の見解動詞、「賛成だ」「反対だ」等の立場表明を使用していない断定形。

	▼疑問系：「(の) ではない (だろう) か」等 ▼意志系：「しよう」等 ▼行為要求系：「てほしい」等 ▼説明系：「のだ」「わけではない」等
② 見解動詞のみ	▼思う系：「思う」「思わない」「思っている」等 ▼考える系：「考える」「考えている」等 ▼言う系：「言える」「言えない」等 ▼信じる系：「信じている」等 ▼感じる系：「感じる」等 ▼主張系：「主張する」等
③ モダリティ+見解動詞	「～べきだと考える」「～方がいいと思う」等
④ 立場表明	▼賛成系：「賛成だ」「賛成する」等 ▼反対系：「反対だ」「反対する」等 ▼支持系：「支持する」等 ▼立場系：「立場をとる」等
⑤ 未使用	①のモダリティ、②の見解動詞、④の立場表明を使用していない断定形の文末表現。 例) 紙媒体は今後も必要である。

上の5つのタイプのうち、「③モダリティ+見解動詞」について説明すると、伊集院・高橋（2012）と野崎・岩崎（2014）の分類には存在しない。しかし、日本語記述文法研究会編（2003:184）では、思考動詞「思う」を取り上げ、話し手の判断や意見、意向等を聞き手に表明する形式として次の2つのタイプを挙げ、両者のニュアンスは異なることを指摘している。

(1) 引用節の述語が断定形の場合：

例：この本はきっと売れると思う。

(2) 引用節の述語が断定形以外の判断形式や意志形の場合：

例：この本はベストセラーになるかもしれないと思う。

また、吉田（2000：89-91）では、意見文で自分の考えを述べる文末表現として、モダリティ表現だけのタイプとモダリティ表現に「思う」「考える」などの思考動詞を付加したタイプを提示し、思考動詞を付加することで表現を主観化したり、逆に客観化したり、或いは婉曲化したりできると説明している。

そこで、本稿では、「主張」の文末表現の分類項目に、モダリティ表現に語調の主観化・客観化・婉曲化などの働きを持つ見解動詞を付加した「③モダリティ+見解動詞」を加えることにした。また、

これを加えることによってモダリティ表現の習得状況について日本語母語話者、台湾人上級学習者、中級学習者の3グループ間の差異や各グループの傾向・特徴などが観察できるのではないかと考える。

ちなみに、日本語作文教科書 10 冊¹⁰を調査したところ、「方がいい」や「ようだ」などのモダリティ表現に「思う」「考える」などの思考動詞や「感じる」「気がする」などの知覚動詞を付加した形が提示されていた。表 6 に作文教科書で提示されている表現をまとめた。

表 6 日本語作文教科書で提示されている意見述べの表現

タイプ	初級から中級前半向け	中級後半から上級向け
モダリティ	<p>▼<u>評価のモダリティ</u>： 「なければならない」「べきだ／べきである」「方がいい」「(する) 必要がある」</p> <p>▼<u>認識のモダリティ</u>（「断定形（φ）」は除く）： 「(べき) だろう／であろう」「かもしれない」「にちがいない」「はずだ」「ようだ」「らしい」</p> <p>▼<u>疑問のモダリティ</u>： 「(方がいいの) ではないか／ではないだろうか／ではなかろうか」</p> <p>▼<u>説明のモダリティ</u>： 「わけだ」「ものだ」</p> <p>▼<u>行為要求のモダリティ</u>： 「てほしい／ないでほしい」</p>	<p>▼<u>評価のモダリティ</u>： 「なければならない」「べきだ／べきである」「方がいい」「(する) 必要がある」</p> <p>▼<u>認識のモダリティ</u>（「断定形（φ）」は除く）： 「だろう／であろう」「かもしれない」「にちがいない」「はずである」</p> <p>▼<u>疑問のモダリティ</u>： 「(べき) ではないか」「(の) ではないだろうか」</p>
見解動詞	<p>▼<u>思う系</u>： 「思う／思われる」</p> <p>▼<u>考える系</u>： 「考える／考えられる」</p> <p>▼<u>言う系</u>： 「言える／(言えるだろう／言えよう)」</p> <p>▼<u>信じる系</u>： 「信じられない」</p>	<p>▼<u>思う系</u>： 「思う／思わない／思われる」</p> <p>▼<u>考える系</u>： 「考える／考えない／考えられる」</p> <p>▼<u>言う系</u>： 「言える／(言えよう)」</p> <p>▼<u>主張系</u>： 「主張する」</p>
モダリティ + 見解動詞	「たらいと思う」「方がいいと思う」「なければならないと思う」「だろうと思う／	「べきだと思う」「方がいいと思う」「だろうと思う／考える／思われる／考えられる」「よ

¹⁰ 稿末に参考資料として載せる。

	考える」「ように思う／思われる」「ような気がする」「(の)ではないかと思う」「てほしい／ないでほしいと思う」	うに思う／感じる」「ような気がする」「(の)ではないかと思う」「てほしいと思う」
立場表明		「賛成だ／である」「異論がある」「同意できない」
未使用	「だ／である」「(こと)が必要だ／重要だ／大切だ」	「である」「～というのが私の考え／結論である」

本稿では、日本語母語話者と台湾人学習者の意見文から抽出した「主張」の文末表現を、以下のような基準に従って分類した。

(1) モダリティについて

① 認識のモダリティの「断定形」(無標形式)と丁寧さのモダリティは分類しない。

② 複数のモダリティが並列して出現した場合は、最も外側に位置するモダリティを基準に分類する。

例：べきだろう→認識のモダリティ「だろう」

例：べきではないだろうか→疑問のモダリティ「(の)ではない(だろう)か」

③ 誤用や非用が認められた場合は、原文を重視する。

例：高齢者が健康でも安楽死を適用することに対して私は反対するのだ。←冒頭文における「のだ」の使用は不適切¹¹であるが、原文を重視して説明のモダリティ「のだ」に分類する。

例：私はたばこを法律で全面禁止と思います。←学習者の中訳は「我認為香菸應該經由法律來全面禁止才對」で、評価のモダリティ「(する)べきだ」の非用と解釈できる。原文を重視して「②見解動詞のみ」に分類する。

(2) 見解動詞について

① 見解動詞にモダリティが付加されている場合は、モダリテ

¹¹ 日本語記述文法研究会編(2003:2)では、「のだ」は先行文脈の内容がその文の内容と関係あることを示す役割を担うとしており、先行文脈がない冒頭部分における「のだ」の使用は不適切と言える。

ィに分類する。

例：言えるだろう→認識のモダリティ「だろう」

- ②複数の見解動詞が並列して出現した場合は、最も外側に位置する見解動詞を基準に分類する。

例：言えないと思う→思う系

例：主張したいと思う→思う系

(3) 立場表明について

- ①立場表明に見解動詞が付加されている場合は、立場表明に分類する。

例：賛成だと考えている→賛成系

例：反対だと思う→反対系

4. 結果と考察

4.1 「主張」の文末表現の使用状況

次の表7は、日本語母語話者、台湾人上級学習者、中級学習者の3グループの「主張」の文の末尾の言語形式の出現状況をまとめたものである。

表7 3グループにおける「主張」の文末表現のタイプ別出現状況

タイプ	日本語話者		上級学習者		中級学習者	
	出現数	%	出現数	%	出現数	%
①モダリティのみ	97	22.9	35	14.7	9	4.0
③モダリティ+見解動詞	59	13.9	51	21.4	43	19.2
小計①+③ [モダリティ表現]	156	36.9	86	36.1	52	23.2
②見解動詞のみ	166	39.2	89	37.4	78	34.8
小計②+③ [見解動詞]	225	53.2	140	58.8	121	54.0
④立場表明	50	11.8	42	17.6	68	30.4
⑤未使用	51	12.1	21	8.8	26	11.6
合計①+②+③+④+⑤	423	100.0	238	100.0	224	100.0

表7を見ると、最も使用が多かった「主張」の文末表現は、3グループとも「見解動詞」（表7の「小計②+③」）で一致している。出現率は、上級学習者が58.8%、中級学習者が54.0%、日本語話者が

53.2%で、それほど大きな差はない。次に使用が多かった表現については、日本語話者と上級学習者は「モダリティ表現」（表7の「小計①+③」）で共通している。出現率は、日本語話者が36.9%、上級学習者が36.1%でほとんど差がない。一方、中級学習者については、「立場表明」の出現率が30.4%で2番目に多く、「モダリティ表現」の出現率23.2%を上回っており、「モダリティ表現」の出現率は上級学習者と日本語話者の2グループより1割以上低くなっている。

伊集院・高橋（2012）では、台湾人学習者の「主張」の文末は日本語母語話者に比してモダリティ表現の出現率が低いと報告している。一方、本調査では、台湾人学習者を中級者と上級者の2グループに分け、文末表現の分類に「③モダリティ+見解動詞」を追加した結果、中級学習者の「主張」の文末におけるモダリティ表現の出現率は確かに日本語話者より低めだが、上級学習者については日本語話者とほとんど差がないという結果を得た。

以下では、3グループで共通して最も使用が多かった「見解動詞」と日本語話者と上級学習者の2グループでは2番目に使用が多く、中級学習者グループについては他の2グループより出現率が1割以上低かった「モダリティ表現」に絞って、3グループの使用状況进行分析・考察する。

4.2 見解動詞の使用状況

次の表8は、日本語母語話者、台湾人上級学習者、中級学習者の3グループの見解動詞の使用状況をまとめたものである。

表8 3グループにおける見解動詞の使用状況

タイプ		日本語話者		上級学習者		中級学習者	
大分類	小分類	出現数	%	出現数	%	出現数	%
思う系	思う	115	51.1	108	77.1	97	80.2
	思われる	7	3.1	0	0.0	0	0.0
	思わない	6	2.7	5	3.6	1	0.8
	思える	3	1.3	0	0.0	0	0.0
	思えない	3	1.3	1	0.7	0	0.0
	思っている	2	0.9	16	11.4	14	11.6

	思った	2	0.9	1	0.7	1	0.8
	思うことができない	1	0.4	0	0.0	0	0.0
	思っ(は)いない	1	0.4	0	0.0	2	1.7
	思っていた	0	0.0	0	0.0	1(1)	0.8
	小計	140	62.2	131	93.6	116	95.9
考える系	考える	57	25.3	1	0.7	0	0.0
	考えている	8	3.6	3	2.1	2	1.7
	考えられる	4	1.8	0	0.0	0	0.0
	考えられない	2	0.9	0	0.0	0	0.0
	考えずらい	1	0.4	0	0.0	0	0.0
	考えない	1	0.4	0	0.0	0	0.0
	小計	73	32.4	4	2.9	2	1.7
感じる系	感じる	3	1.3	0	0.0	0	0.0
	感じている	1	0.4	0	0.0	0	0.0
	感じてやまない	1	0.4	0	0.0	0	0.0
	感じるこ(が)よくある	1	0.4	0	0.0	0	0.0
	小計	6	2.7	0	0.0	0	0.0
言う系	言えない	2	0.9	1	0.7	1	0.8
	言える	1	0.4	0	0.0	0	0.0
	言いたい	0	0.0	1	0.7	0	0.0
	小計	3	1.3	2	1.4	1	0.8
主張系	主張する	1	0.4	1	0.7	0	0.0
	主張である	1	0.4	0	0.0	0	0.0
	主張している	0	0.0	1(1)	0.7	1(1)	0.8
	小計	2	0.9	2	1.4	1	0.8
訴える系	訴える	1	0.4	0	0.0	0	0.0
	小計	1	0.4	0	0.0	0	0.0
信じる系	信じている	0	0.0	1	0.7	1(1)	0.8
	小計	0	0.0	1	0.7	1	0.8
	合計	225	100.0	140	100.0	121	100.0

註一：見解動詞の文体は、便宜上、普通体で統一する。

註二：表中の()内の数字は、当該動詞の出現数中の誤用の数である。

まず、最も使用が多かった見解動詞のタイプは、3グループとも「思う系」で一致している。しかし、その出現率は中級学習者が95.9%、上級学習者が93.6%、日本語話者が62.2%で、学習者グループと日本語話者グループの間に大きな差が見られる。中級学習者と上級学習者の2グループの「思う系」の出現率は9割以上でほとん

ど差がなく、「思う系」に使用が集中している。それに対し、日本語話者グループの方は「思う系」の出現率が学習者グループより3割以上低く、中級学習者と上級学習者の2グループがほとんど使用していない「考える系」の出現率が32.4%で、「思う系」と「考える系」の2タイプに使用が分散している。この結果は、伊集院・高橋(2012)と野崎・岩崎(2014)の報告と一致するものである。

次に、表9に3グループが使用した見解動詞のタイプごとのバリエーション数をまとめた。

表9 3グループにおける見解動詞のタイプ別バリエーション数

タイプ	日本語話者	上級学習者	中級学習者
思う系	9	5	6(1)
考える系	6	2	1
感じる系	4	0	0
言う系	2	2	1
主張系	2	2(1)	1(1)
訴える系	1	0	0
信じる系	0	1	1(1)
合計	24	12	10

註：表中の()内の数字は、当該タイプで誤用が認められたバリエーションの数である。

表9から、台湾人学習者は日本語母語話者と比べて使用できる見解動詞とそのバリエーションが限られており、中級段階から上級段階に進んでもそれほど増えていないことが分かる。また、学習者には誤用も観察された。それらは、次に示すように全て見解動詞の現在進行形か過去進行形の不適切な使用であった。

産出例1：私は20歳以上のままでいいと思っていた。[中級者]

産出例2：ですので、私は新聞や雑誌の存在が必要だと主張している。[上級者]

産出例3：私はインターネット時代でも、新聞や雑誌は必要だと主張しています。[中級者]

産出例4：(厳しい法律と手段で禁止したら、逆にもっと悪い結果

になるかもしれない。) それなら、たばこをやめることを助ける方がいいと信じている。[中級者]

日本語の「～ている」は現時点で動作が継続していることを、「～ていた」は過去のある時点で動作が継続していたことを表す。学習者の産出例 1 については、現在の自分の考えを述べなければならないのに、過去の自分の考えについて述べる時に使う「思っていた」¹²を使用しているので、不適切だと言える。産出例 2 と産出例 3 については、「主張している」を使うと、「日頃から紙媒体の必要性を唱え、訴えている」といった意味合いになるので不適切だと思われる。本調査では、日本語話者にも「主張する」の使用が観察されたが、次に示すように現在形（非過去形）であった。

産出例 5：インターネットがどれだけ普及しようともどれだけ便利になろうとも、新聞や雑誌、つまりペーパーメディアが、人々に必要のないものとされることはないだろう、と私は主張する。[日本語話者]

そして、学習者の産出例 4 については、書き手が喫煙を厳しく法規制した場合、逆効果で事態が更に悪化する可能性を想像して、その場で下した判断を述べているので、以前から現在までそのような確信を持っているといった意味合いの「信じている」より、その場で下した判断という意味合いを持つ「思う」¹³の方が適切である。

以上のように、本調査で観察された学習者の誤用は全て見解動詞の現在進行形か過去進行形の不適切な使用であった。本調査では、現在進行形の使用に関して、もう一つの傾向が観察された。

一部の日本語作文教科書で、自分の現在の意見を伝える表現とし

¹² 倉八（2000：72）では、「自分の過去の考えについて述べるとき」には「～と思っていた」を使うとしている。

¹³ グループ・ジャマシイ（1998：58）では、「思う」は、「話し手がその場で下した判断という意味合いが強い」と解説している。

では「適当ではない」とされる「思っている」の使用が、学習者グループだけでなく、日本語話者グループにも観察されたのである。学習者については中級と上級のいずれのグループについてもその出現率が1割を超えている。「思っている」の使用が適当でないとすれば、「考えている」の使用も適当でないと類推されるが、こちらについても3グループ全てに使用が観察された。次に日本語話者と学習者の使用例を示す。

産出例 6：したがって、私は自分の経験から考えても自分たちの生活からペーパーメディアが無くなること、自分たちがペーパーメディアを不必要とすることなど、ありえないことだと思っている。[日本語話者]

産出例 7：私自身もたばこは嫌いだが、人を「尊重する」のが私の原則だから、特に文句を言わないが、喫煙者からの配慮をもっともらえたらいいと思っている。[上級者]

産出例 8：高齢者の安楽死合法化について私は賛成で必要があるとさえ思っている。[上級者]

産出例 9：しかし、僕自身はこれからも新聞や雑誌は必要であると考えている。[日本語話者]

産出例 10：なので、たばこを禁止すると言うのではなく、何か規則を作るべきだと考えています。[中級者]

倉八（2000:125）は、自分の現在の意見を伝えるための注意点として、「思う」が「もっとも適当」であり、「思っている」は「適当ではない」としている。一方、石黒・筒井（2009:38）は、自分自身の考えを述べる時には、「思う」を使えば、まず間違いのないとした上で、(1) 以前と異なる「今」を強調したいとき、(2) 以前からの継続を強調したいとき、(3) 思っているの人が「私」ではないとき、の3つの場合には「思っている」を使うとしている。また、グループ・ジャマシイ（1998:58）は、「思っている」は、「以前から現在

に到るまでそのような意見や信念を持っている」といったニュアンスがあるとしている。つまり、以前からその物事や問題について考えていて、すでに自分なりの意見を持っているという立場で書くのであれば、「思っている」は使用可能だということになる。

しかし、学習者がそうした日本語の文章表現ルールを理解した上で、「思う」と「思っている」を使い分けているかは疑問である。どちらかと言えば、「“今現在” そのような意見を持っている」といったニュアンスで「思っている」を使っている可能性が高いように思う。表6に示したように、日本語の作文教科書で意見述べの表現として「思っている」が提示されることはほとんどないにも関わらず、台湾人学習者がこれをよく使う理由を調査する必要があるだろう。また、意見文の指導の際には、ただ意見述べの表現を提示するのではなく、例えば、「思う」「思える」「思われる」「思っている」「思っていた」「思った」などの意味合いの微妙な違いについても十分説明し、理解させることが重要であろう。

4.3 「思う」使用の要因

その他、「思う」に関して、野崎・岩崎（2014）では、中国人学習者が書いた日本語と中国語の意見文を比較して、中国人学習者が断定的表現を避けるために「思う」を多用した可能性を指摘している。しかし、本調査では同じく中国語を母語とする台湾人学習者については、その可能性は低いという結果を得た。

前に述べたように、吉田（2000）は、モダリティ表現に「思う」や「考える」などの思考動詞を付加することで表現を婉曲化することができる」と述べている。そこで、本調査で台湾人学習者に書いてもらった4つの意見文のうち、中国語訳のある「ネット時代における紙媒体の必要性」「喫煙規制」「高齢者の安楽死合法化」に関する3つのテーマの意見文から、「モダリティ＋〈思う系〉見解動詞」の形式の文末表現を抽出し、「〈思う系〉見解動詞」の中国語訳を調べた。その結果を次の表10にまとめた。

表 10 台湾人学習者が産出した〈思う系〉見解動詞の中国語訳

中国語訳	モダリティ+〈思う系〉見解動詞		〈思う系〉見解動詞のみ	
	出現数	%	出現数	%
1. 認為	26	47.3	62	50.8
2. 相当語なし	18	32.7	26	21.3
3. 覺得	8	14.5	25	20.5
4. 想	3	5.5	7	5.7
5. その他	0	0.0	2	1.6
合計	55	100.0	122	100.0

表 10 に示したように、台湾人学習者が書いた 3 つのテーマの意見文に出現した「モダリティ+〈思う系〉見解動詞」の形式の文末表現は計 55 例で、それらの「〈思う系〉見解動詞」の中国語訳では「認為」が 26 例（47.3%）で最も多かった。次いで、「思う」の相当語がないものが 18 例（32.7%）、「覺得」と訳されているものが 8 例（14.5%）、「想」が 3 例（5.5%）であった。以下に産出例を挙げる。

産出例 11：《認為》ですが、私は高齢者の安楽死を合法化すべきだと思います。（但我認為應將高齡者的安樂死合法化。）[上級者]

産出例 12：《相当語なし》ですから、政府は国民の健康を守るために、どんなことを規制する必要があるのか、よく考えなければならないと思います。（政府為了保護國民的健康安全，必須好好考慮規定什麼樣的規範。）[上級者]

産出例 13：《覺得》台湾は今高齢化社会で、間もなく超高齢化社会になっても、高齢者の安楽死を合法化すべきではないと思う。（台灣現在已是高齡化社會，很快地要進入超高齡化社會，即使這樣，我覺得不應該合法高齡者的安樂死。）[中級者]

産出例 14：《想》たばこを吸えること吸えないところに関するルールに政府は今以上に徹底的、そして、力を入れるべきだと思います。（我想政府在關於吸菸區和禁菸區相

關的規定上做得更加徹底，且更加認真去實行才是最重要的。) [上級者]

モダリティ表現に付加しない「〈思う系〉見解動詞のみ」の形式についても調べてみたが、表 10 の右欄に示したように、それらの中国語訳では「認為」が 122 例中 62 例 (50.8%) で最も多く、次いで、「思う」の相当語がないものが 26 例 (21.3%)、「覺得」と訳されているものが 25 例 (20.5%)、「想」が 7 例 (5.7%) と、「モダリティ＋〈思う系〉見解動詞」の場合と同様の傾向が示された。

巫宜静・劉美君 (2001) では、話し手が物事に対する見方を伝える時に用いる「認為」は、ある物事に対して分析思考を経た後の判断を示す以外の意味を持たないとしている。つまり、「認為」には断定的な語調を和らげる働きはないことになる。また、李郁瑜 (2013) でも、「認為」は強く断言する時に用いると指摘している。

本調査では、中級学習者の意見文に次の産出例 15 と産出例 16 のような「思う」の過剰な使用が観察されている。

産出例 15: この提案は必ず反対する人が多いが、私は賛成だと思
う。 [中級者]

産出例 16: ですから、私は病気ではない高齢者に安楽死合法化が
反対だと思います。 [中級者]

以上の点から総合的に判断すると、台湾人学習者は「思う」を断定的表現を避けるためではなく、自分の意見を述べる際の「談話標識」として使用している可能性が高いと考えられる。

4.4 モダリティの使用状況

本節では、モダリティ表現の使用状況について分析・考察する。次の表 11 は、日本語母語話者、台湾人上級学習者、中級学習者の 3

グループのモダリティ表現の使用状況をまとめたものである。

表 11 3 グループにおけるモダリティ表現の使用状況

モダリティ表現	日本語話者		上級学習者		中級学習者	
	出現数	%	出現数	%	出現数	%
[認] だろう	46	29.5	6	7.0	2	3.8
[評] べきだ／べきではない	32	20.5	38	44.2	14	26.9
[疑] (の) ではない (だろう) か	18	11.5	11	12.8	0	0.0
[説] のだ／のではない	16	10.3	1(1)	1.2	0	0.0
[認] よう (だ)	7	4.5	0	0.0	0	0.0
[行] てほしい／てほしくない	7	4.5	3	3.5	2	3.8
[説] ということだ	5	3.2	0	0.0	1	1.9
[評] なければならない	4	2.6	2	2.3	1	1.9
[評] ばいい	4	2.6	1	1.2	0	0.0
[行] てもらいたい	3	1.9	0	0.0	0	0.0
[評] てはならない	2	1.3	0	0.0	0	0.0
[評] 方がいい	2	1.3	14	16.3	29	55.8
[認] かもしれない	1	0.6	2	2.3	0	0.0
[認] はずだ	1	0.6	1	1.2	0	0.0
[評] てもいい	1	0.6	1	1.2	0	0.0
[評] しかない	1	0.6	0	0.0	0	0.0
[評] (する) 必要がある	1	0.6	0	0.0	0	0.0
[評] (する) ことはない	1	0.6	0	0.0	0	0.0
[認] そう (だ)	1	0.6	0	0.0	0	0.0
[疑] どうか	1	0.6	0	0.0	0	0.0
[行] ように	1	0.6	0	0.0	0	0.0
[意] しよう	1	0.6	0	0.0	0	0.0
[評] てもかまわない	0	0.0	2	2.3	0	0.0
[評] てはいけない	0	0.0	1	1.2	1	1.9
[評] たらいい	0	0.0	1	1.2	0	0.0
[行] てください	0	0.0	1	1.2	0	0.0
[説] わけではない	0	0.0	1	1.2	1	1.9
[説] わけにはいかない	0	0.0	0	0.0	1	1.9
合計	156	100.0	86	100.0	52	100.0

註一：表中の () 内の数字は、当該表現の出現数中の誤用の数である。

註二：表中の [認] [評] [疑] [説] [行] [意] はそれぞれ認識系、評価系、疑問系、説明系、行為要求系、意志系のモダリティ表現であることを指す。

まず、各グループが使用したモダリティ表現の「異なり数」を見てみると、日本語話者が 22、上級学習者が 16、中級学習者が 9 で、

3 者の間には一定の開きがある。これは 3 者のモダリティ表現の習得状況に差があることを示すものと考えられる。

次に、各グループで出現率が 1 割を超えたモダリティ表現を見てみると、まず、中級学習者は「方がいい」(55.8%)と「べきだ」(26.9%)の 2 つに集中しており、特に初級文型の「方がいい」の出現率が過半数を占め、顕著に高い。中級学習者の産出例をいくつか挙げる。また、中級学習者には、次の産出例 21 と産出例 22 のような「べきだ」の非用も観察された。

産出例 17 : というわけで、私は台湾の選挙権年齢について、20 歳以上のままのほうがいいと思います。[中級者]

産出例 18 : 最後に、この理由に基づいて、公共場所や交通機関で禁煙したほうがいいと思う。[中級者]

産出例 19 : 確かに、公共の場所や交通機関では、たばこを吸えないよう規則を作るべきです。[中級者]

産出例 20 : 私は台湾でも選挙権年齢を 18 歳以上に引き下げるべきだと思います。[中級者]

産出例 21 : 《非用》私はたばこを法律で全面禁止と思います（中国語訳：我認為香菸應該經由法律來全面禁止才對。→私はたばこを法律で全面禁止すべきだと思います。）
[中級者]

産出例 22 : 《非用》たばこのコマーシャルは一切禁止で、ドラマやテレビ番組でのたばこを吸うシーンにも減らすようにさせます。（中国語訳：關於香菸的宣傳應當全都禁止。以外，於電視節目或者是連續劇中的畫面也應該減少。→たばこのコマーシャルは一切禁止すべきで、ドラマやテレビ番組でのたばこを吸うシーンも減らすようにさせるべきです。）[中級者]

次に、上級学習者については、「べきだ」(44.2%)の出現率が最も

高く、次いで「方がいい」(16.3%)、「(の)ではない(だろう)か」(12.8%)と続く。上級学習者の産出例をいくつか挙げる。

産出例 23: ですから、公共の場所でたばこを吸う行為は迷惑行為で他人の体にもよくないから禁止するべきだ。[上級者]

産出例 24: そのため、高齢化社会になった国は、この権利を合法化すべきだと思います。[上級者]

産出例 25: でも、いろいろ考えてみて、私はやはり今まで通りに20歳で選挙権を与えることを維持した方がいいと思います。[上級者]

産出例 26: 18歳以上に引き下げるのは非常にいい政策だが、今の段階では、20歳以上のままで、そして数年後18歳以上に引き下げたほうがいいと思う。[上級者]

産出例 27: したがって、現在の社会では、たばこを吸わない人や子供の権利が大切だが、たばこを吸う人の権利も重視すべきなのではないだろうか。[上級者]

産出例 28: 高校生たちが選挙制度がわかっているから、選挙権を与えてもいいではないかと思っている。[上級者]

そして、日本語母語話者については、「だろう」(29.5%)の出現率が最も高く、次いで「べきだ」(20.5%)、「(の)ではない(だろう)か」(11.5%)、「のだ」(10.3%)となっている。日本語母語話者の産出例をいくつか挙げる。

産出例 29: 以上より、新聞や雑誌は、受信者との間にインターネットという更なる媒体を挟む余地はあるが、その必要性を今後も失わないだろう。[日本語話者]

産出例 30: 以上のことから、インターネットこそが、現代という時代に適した媒体であり、適者生存の原則にのっとり、

生き残ってゆけるものであろう、と私は思う。 [日本語話者]

産出例 31: どちらのメディアも社会的に重要で今後も存続させていくべきである。 [日本語話者]

産出例 32: タバコを喫う権利は誰にでも成人者ならありますが他人の権利を犯すことはできないと思いますので公共の場でタバコを規則で一律に禁止するべきだと思います。 [日本語話者]

産出例 33: よって、これからも雑誌や新聞などの手段は必要であると言えるのではないか。 [日本語話者]

産出例 34: 節度ときまり、マナーが守れるのならば、強く規制する必要はないのではないかと考える。 [日本語話者]

産出例 35: ですから、私は喫煙を規制することに賛成なのです。 [日本語話者]

産出例 36: やはり喫煙者がきちんと自確して地球に対して周りの人に対して恥かしくない様に心がけるののみなのだと思います。 [日本語話者]

以上の結果から、中級段階の台湾人学習者はモダリティ表現の運用能力がまだそれほど身に付いておらず、意見述べに使えるのは、「方がいい」「べきだ」などごく限られたものであることが分かった。そして、上級段階になると、中級段階よりは運用能力が向上するが、日本語母語話者が比較的多用する「だろう」や「のだ」などはまだ使いこなせないことが分かった。

「だろう」については、伊集院・高橋（2012）で、日本語母語話者の「主張」の文末は台湾人中上級学習者に比べて「だろう」の使用が目立つことが報告されている。また、野崎・岩崎（2014）では、中国人中上級学習者は「だろう」の使用が困難であることを指摘している。本調査では、台湾人学習者を中級と上級の2つのグループに分けて比較分析したが、日本語話者の「だろう」の出現率 29.5%

に対し、中級学習者 3.8%、上級学習者 7.0%と、いずれのグループもかなり使用が少なく、学習段階が上がってもそれほど習得が進まないことが明らかになった。

その他、「だろう」と同じく推定表現の「ようだ」は、表 6 に示した通り、「ようだ」「ように思う／思われる」「ような気がする」等の形で、すでに中級前半向けの作文教科書で意見述べの表現として提示されている。本調査では、日本語母語話者に「ように思う／思える／思われる」など「ようだ」に「〈思う系〉見解動詞」を付加した文末表現の使用が観察されたが、台湾人学習者については中級と上級のいずれのグループにも観察されなかった。

これらの点から、台湾人学習者にとって独断的なニュアンスを伴い論説的な文章で用いられることの多い「だろう」¹⁴や婉曲用法のある「ようだ」¹⁵などの推定のモダリティは、習得が困難であることが推測される。

台湾人日本語学習者が論説文で自分の意見を述べる際、その表現の断定性や客観性の度合いを調整できるよう、「思う系」だけでなく、「考える系」や「だろう」など様々な表現を使用できるように指導することが必要であろう。

5. おわりに

以上、本研究では、日本語母語話者と台湾人中級学習者および上級学習者の日本語意見文から「主張」を抽出し、その文末表現の使用状況を比較分析した。その結果、中級と上級の各段階にある台湾人学習者の「主張」の文末表現使用の傾向や特徴について、次のことが明らかになった。

- (1) 台湾の中級学習者と上級学習者はいずれも自分の意見を述べる際、「〈思う系〉見解動詞」を多用する傾向がある。
- (2) 台湾人学習者は「〈思う系〉見解動詞」を、断定を回避する

¹⁴ 日本語記述文法研究会編（2003：148）参照。

¹⁵ 日本語記述文法研究会編（2003：165）参照

ためではなく、自分の意見を述べる際の「談話標識」として使用している。

- (3) 台湾人学習者は自分の意見を述べる際、「見解動詞」の現在進行形を比較的よく使用するが、「今現在そのような意見を持っている」といったニュアンスで使っていることが推測される。
- (4) 中級学習者はモダリティ表現の運用能力がまだそれほど身に付いておらず、意見述べに使えるのは、「方がいい」「べきだ」など非常に限られている。
- (5) 上級学習者は、中級学習者よりモダリティ表現の運用能力が向上しているが、日本語母語話者が比較的よく使用する「だろう」や「のだ」などはまだ使いこなせない。
- (6) 日本語母語話者については、台湾人学習者と比べて使用する見解動詞とモダリティ表現に多様性があり、個別の言語形式では「〈考える系〉見解動詞」と「だろう」の使用が目立つ。

本研究では、日本語母語話者との比較を通して、台湾の中級と上級の各段階にある日本語学習者の意見文における「主張」の文末表現使用の傾向や特徴を明らかにすることを試みた。今後は、意見文の文章構造や接続表現の使用などについても分析を行い、意見文指導に役立つ示唆を得たい。

参考文献

- 李貞旻 (2008) 『朝日新聞社説における「主張のストラテジー」の対照研究』 東京：ひつじ書房。
- 石黒圭・筒井千絵 (2009) 『留学生のためのここが大切 文章表現のルール』 東京：スリーエーネットワーク。
- 伊集院郁子・高橋圭子 (2012) 「日本・韓国・台湾の大学生による日本語意見文の構造的特徴—「主張」に着目して」『日本語・日本学研究』第2号、pp. 1-16、東京外国語大学国際日本研究センタ

一。

- 大西道雄（1990）『意見文指導の研究』広島：溪水社。
- 木戸光子（1992）「文の機能に基づく新聞投書の文章構造」『表現研究』第55号、pp. 9-19、表現学会。
- 倉八順子（2000）『日本語の作文技術 中・上級』東京：古今書院。
- グループ・ジャマシイ（1998）『教師と学習者のための 日本語文型辞典』東京：くろしお出版。
- 近藤章（1996）「「意見文」の作文技術」国語教育研究所（編）『「作文技術」指導大事典』pp. 225-241、東京：明治図書出版。
- 梶本総子（1997）「意見文の構造—中・上級学習者の作文における問題点」『大阪大学留学生センター研究論集 多文化社会と留学生交流』創刊号、pp. 79-92、大阪大学留学生センター。
- 日本語記述文法研究会編（2003）『現代日本語文法 4 第8部 モダリティ』東京：くろしお出版。
- 野崎まり・岩崎裕久美（2014）「中国語母語話者の日本語の意見文に用いられる文末表現—日本語話者・中国語話者の日本語意見文及び中国語意見文を比較して」『神奈川大学言語研究』第36号、pp. 45-67、神奈川大学言語研究センター。
- 吉田妙子（2000）『たのしい日本語作文教室Ⅱ 改訂版（文法総まとめ）』台北：大新書局。
- 李郁瑜（2013）「「想」與「考慮」、「認為」、「覺得」的辨析及教學」（碩士論文）陝西師範大學。
- 巫宜靜・劉美君（2001）「心理動詞「想」、「認為」、「以為」與「覺得」的語義區分及訊息表達—以語料庫為本的分析方法」『第十四屆計算語言學研討會論文集』。

参考資料（日本語作文教科書）

- アカデミック・ジャパニーズ研究会（2002）『大学・大学院 留学生の日本語④論文作成編』東京：アルク。

- 石黒圭・筒井千絵（2009）『留学生のためのここが大切 文章表現のルール』東京：スリーエーネットワーク。
- 門脇薫・西馬薫（1999）『みんなの日本語初級・やさしい作文』東京：スリーエーネットワーク。
- 神田靖子・山根智恵・入江さやか・佐尾ちとせ・米沢昌子（2004）『日本語を書く楽しみ』岡山：西日本法規出版社。
- 倉八順子（1997）『日本語の表現技術—読解と作文 上級』東京：古今書院。
- 倉八順子（2000）『日本語の作文技術 中・上級』東京：古今書院。
- 佐々木瑞枝・細井和代・藤尾喜代子（2006）『大学で学ぶための日本語ライティング』東京：The Japan Times。
- 佐藤政光・田中幸子・戸村佳代・池上摩希子（2002）『表現テーマ別にほん語作文の方法（改訂版）』東京：第三書房。
- 友松悦子（2008）『中級日本語学習者対象 小論文への12のステップ』東京：スリーエーネットワーク。
- 吉田妙子（2000）『たのしい日本語作文教室Ⅱ 改訂版（文法総まとめ）』台北：大新書局。

使用データベース

- 伊集院郁子（2011）「日本・韓国・台湾の大学生による日本語意見文データベース」
- 国立国語研究所（2009）「日本語学習者による日本語作文と、その母語訳との対訳データベース」